

## 市民とともに 第5回「平穏死を考える集い」開催

令和2年8月1日（土）西益津地区交流センターを会場に、一般社団法人志太医師会（会長：錦野光浩氏）と藤枝市との共催で、「平穏死を考える」ための研修会と意見交換会を開催しました。この集いは市内の地域各所を会場に開催し、今回は医師4名・市民16名が参加しました。

### 第1部 人生の最期は、医療でなく生活の場で迎えたい

報告者：介護保険施設ユニケア岡部 施設長 杉浦 正司 医師

杉浦医師が所属する志太会・三輪医院は、100年に及ぶ地域に密着した開業医であり、現在も子どもから高齢者までの一貫した医療体制をとっています。

杉浦医師からは、外来で診療をしていた高齢者が介護保険や往診を必要とする状態となり、看取りの支援までを行った数例の事例の報告がありました。その中で、看取りの場所は、在宅や介護施設など様々だが、「死」を自然なことと考え、生活の場で「最期を迎えたい」という思いに答えていきたい。平穏な最期を迎えるためには、①比較的元気なうちから今後のことを家族等と「人生会議」をすること②かかりつけ医を決めておくこと③いざという時の救急の対応を考えておくことが必要など報告され、参加者は平穏な最期について、どのようなことに意識していけばよいかを考えることができました。



### 第2部 意見交換会「皆さんが思い描く平穏死を語ろう・聞こう・話し合おう」

参加市民が4つのグループに分かれ、各グループに志太医師会協力医師（錦野 光浩氏 三輪 誠氏 市立総合病院 吉野 吾郎氏）が意見交換会の進行や医師の立場でのアドバイスをし、志太医師会在宅医療サポートセンターのコーディネーターや地域包括ケア推進課の職員がサポートしました。

#### 参加者の感想（抜粋）

- ・先生の報告を聞いて『家族でよく話し合う。皆で話をす。』ことが大切だと思った。
- ・今後のことは、今のところ考えはまだまだまとまっていませんが、これから色々と考えていきたいと思います。
- ・在宅医療の現状が分かった。
- ・単なる講演会だけでなく、グループごとの話し合いがあり、意見・考えを述べ、本当に“参加”した感じがした。



## 人生会議で自分の想いをつむぐ

「人生会議」とは、自分らしい生き方について医療従事者や家族とともに将来の医療やケアについてあらかじめ話し合うプロセスを言います。最期まで「自分らしい生き方」ができるように、これまでの自分自身の生き方や今後の人生への想いをつむぐための「想いつむぎノート」を平穏死を考える集いで配布しました。ノートは、藤枝市福祉センター（きすみれ）や市内地区交流センター、市役所等で配布しています。

